

2014 四季のコンサート だより

2014年10月1日発行

浜松音楽友の会

事務局 〒430-0204 浜松市中区中沢町44-11

電話連絡 (053) 473-3579 (原)

e-mail: hamatomo@palette.plala.or.jp

http://www6.plala.or.jp/hamatomo/

4月5日(土)の四季のコンサートにご出演いただいたジョン・健・ヌッツォ氏に演奏会后、お時間を割いていただきインタビューをさせていただきました。

声楽家 ジョン・健・ヌッツォ

Q: 会場のはまホールは浜松市民に長く愛されてきたホールですが、響きなど、ホールの感想はいかがでしたでしょうか?

閉館間近と伺い、正直ちゃんと響くホールなのかと心配していましたが、歌いだした瞬間、声がホールに響き渡り、非常に心地よかったです。私自身、無理なく表現が出来るので、音楽に秘められた感情も皆さんの心に伝わるんだと思います。

響きのいいホールに出会えると、生声で歌う喜びが倍増します。後日、ホームページなどを通じてメッセージが寄せられ、皆さんが長年のはまホールを大事にされてきたのだと、改めて感じました。

Q: ブログにも書かれていたように、今回ヌッツォさんはステージの飾り付けに合わせて、プログラムにはなかった「さくら」を歌われたのですね。素敵なお心遣いだと思います。会場の雰囲気インスパイアされて曲目を変更されることは、他のリサイタルでもあるのでしょうか?

今回のように自由な発想のプログラムの場合、まれにあります。お客様に楽しんでもらいたい、感動レベルを上げたいという気持ちになった時、ピアニストの無理を承知で変更してしまいます。

Q: これまでのステージで思いがけないハプニングは経験されてますでしょうか? 差し支えなければお聞かせください。

ウィーン国立歌劇場でのデビュー時は、2日しか練習がなく、



「春のコンサート」4月5日

しかもステージ練習もコーラス、オーケストラもない練習で、実質ぶっつけ本番のようなもの。最初のステージのとき、「さあ！」と背中を押されて舞台に出たものの、「わー、人がいっぱい入っている！ウィーンフィルだ！コーラスもこんなにいるんだ！」と、頭が真っ白になってしまい、出だしの1音を出せませんでした。そのとき、客席に背を向けていたソプラノの方が、微笑みながら「Look at me」といって、演技しながら「入り」を教えてくださいました。

終わった後、「ヌッツォ、ブラボー！」とディレクターから言われたときは、非常に嬉しく、未だに忘れられない思い出です。

Q: ヌッツォさんは、今年の秋にかけて、「コジ・ファン・トゥッテ」のフェルランド、「リゴレット」のマントヴァ公爵などを演じられます。ヌッツォさんがこれまで出演された多くのオペラの中で一番好きな役を教えてくださいませんか?

ブッチーニ「ラ・ボエーム」のロドルフォ役です。第3幕の音楽は、自分の中ではオペラ史上に残る素晴らしい音楽だと思います。メトロポリタン歌劇場の初のTV放送の演目でもあり、その際に尊敬するテノール バヴァロッチが歌っていた事でも有名です。

Q: ヌッツォさんは、多くのチャリティコンサートに出演されていますが、これまでのコンサートで記憶に残るものについてお聞かせください。

一番記憶に新しいのは、東日本大震災の後、宮城県の避難所で慰問コンサートの後、ふと涙目になって感情をあらわにした私に対し、笑って「また海が悪んでくれるさ」と、人の心のパワーを感じたことです。

どうもありがとうございました。貴重なお時間を割いてお答えいただき感謝いたします。ヌッツォさんの益々のご活躍をお祈りしております。



写真: ©Katia Kololtseva

弱点は味方

ユーフォニアム奏者 小久保まい

浜松音楽友の会の皆さま、このような素晴らしい機会を頂き、心より御礼申し上げます。「四季のコンサート」は、母がずっと会員で、「いつか私もここで演奏できるかな。頑張ろう！」と思っていたので、長年の夢が叶い、本当に嬉しかったです。

ユーフォニアムとは、ギリシャ語を起源にもつ言葉で、「響き渡る、心地よい音」という意味があり、主に吹奏楽で活躍する楽器です。しかし、この楽器は本当に有名ではありません。小学校の金管バンド部で最初「ユーフォー(U.F.O)」だと思っていたほどです。でもその独特な音色と、誰も知らないマイナー楽器というポジションにすっかり魅了され、どんどんのめり込んでいきました。ユーフォニアムは、実はソロ(独奏)での演奏を得意としています。その結果、私は高校生から大学院を出るまで、



今年5月アメリカ・インディアナ大学の「国際ユーフォニアム・チューバ会議」にてソロリサイタル

ずっとソロコンクールに挑戦し続けました。しかし、体の小さい私は、大きい音が出せない、フレーズも長く保てない弱点に苦しみました。そのうえライバルは男の人ばかりですし、留学先のアメリカ人の体の大きさ、肺活量の多さに敵いません。

思うような演奏も結果もせず、いつしか「どうせ女で小柄だから、日本人だから」と思い、諦めるようになっていきました。

ある日、留学先の先生に「マイはどうして、いつも『誰か』になろうとするんだ。君の演奏をしなさい!」と怒られたのです。その瞬間、いままで自分のアイディアやフレーズで歌わないから、息がいつも足りなかったんだ!と気づいたのです。そこから自分のできる事、アピールできる事を探し続けて、自分なりの得意技を見つけました。それが「邦人作品」、「スピード感のある演奏」でした。日本の曲は独特の間を取るほど味がでるので、その間を利用して息を吸えます。そして、私の小さな指は、力が入らない代わりに、しなやかに素早く動かさず。今回のプログラムも、そうした作品を取り上げました。自分の弱点から、結局自分の得意技を見出した事は、一生の宝物です。これからも胸をはって音楽を磨いていきたいです。



継続は力

友の会会員 小澤英夫

1994年、浜松市は「楽器の街」から「音楽の街」へというキャッチフレーズを掲げ、664億円を拠出。アクトホールが完成した。1991年には市制80年を記念して第一回浜松国際ピアノコンクールが開催され今日にいたっている。「浜松音楽友の会」は30年前の1984年、まさに「音楽の街」の先駆けとして発足、一流音楽家の演奏を手ごろな費用で楽しめるのは、長年にわたる運営スタッフの方々の努力の賜物と思う。

第一回の久保陽子氏のヴァイオリンの音色は今でも脳裏に鮮明に残っている。それまでこうした一流の音楽家の生の演奏を聴いたことがなかった私にとって新鮮な感動であった。

この頃は楽器の種類、声楽の全てにわたってそれなりの楽しみ方、自分なりの情景を描きながら聴くことが出来

るようになった気がする。会員の多くは大の音楽好き、それもクラシック系のファンに違いない。私のようなさほどでもない者がこうした音楽に感性を持たたということは、一流の生演奏を聴いてきたおかげかと思う。

気になることがある。それはアンコールタイムになると、席を立つ人が少なからずいることだ。演奏会は、演じる人がいて聴衆がいて成り立つ。一流のオーケストラなどはアンコール演奏をしない事もあると聞く。しかし、多くの独奏・独唱では再登場を願う聴衆の要望に応えるアンコールタイムは、締めくくりの大切な時間でもあると思う。

家路を急ぐ理由の一つに、電車・バスの時間があるのかもしれないが、すばらしい演奏を聴いたらこうした演奏会のマナーもまた大切にして欲しいものだ。

四季のコンサートに入会して

中学2年 中村彩乃

四季のコンサートは私が幼稚園の頃から父母が入っています。私と弟は託児の部屋にいました。託児の部屋は割と広くてのんびり遊べました。お菓子をもらったり、いつも来ている子ども仲良しになって、とても楽しかったです。はまホールは学校の発表会で使ったりするけれど、こういう部屋があるなんて探検のようで不思議な感じでした。弟が4年生になったころから託児には行かず、家で留守番をする様になり四季のコンサートとは離れた感じがしていましたが、2人とも大きくなったから今年は家族全員でコンサートデビューしようと父が言って家族4人で会員になりました。

今まで学校での音楽鑑賞教室くらいしかコンサートに行ったことは無かったけれど、本当に四季のコンサートは楽しいです。音楽に関心の無かった私が、家族皆で本物の音楽を聴いたことや帰り道に夜のお散歩気分歩きながら今日聴いた音楽のことを父や母と話をするのは、普段と違って新鮮な気持ちになりました。うきうきした気持ちでうす暗い道を歩くななんて他の時にはないことです。

初めて聴いたジョン・健・ヌッツオさんの歌はすごく素敵でお話も上手で、アンコールもたくさん歌ってくれて最高でした。また次のコンサートが楽しみです。

これからのコンサート予定

秋 ブルーオーロラ サクソフォン・カルテット 10月19日(日) 6:45PM(開演)

サクソスはここまで来た。“革命児”平野公崇が、ソロ・トップ・プレイヤーとしてもそれぞれ活躍する大石将紀、西本淳、田中祐也と共に結成したサクソフォン四重奏団。グループ名は武満徹の作品「一柳慧のためのブルー・オーロラ」に由来する。クラシック作品はもとより、ジャズ・テイスト、即興等を取り入れた多彩なプログラムで会場を沸かせている。



写真：ノザワヒロミチ

1部

グラスノフ/サクソフォン四重奏曲 変ロ長調より 第1楽章
ドビュッシー/ベルガマスク組曲より「プレリュード」、「月の光」
チャイコフスキー(平野公崇編)/[四季]より「草刈り人の歌」、「秋の歌」
山田耕筰(平野公崇編)/赤とんぼ
バルトーク(平野公崇編)/マイクロコスモス「ブルガリアのリズムによる6つの舞曲」より

2部

J.S.バッハ(平野公崇編)/平均律クラヴィーア曲集 第2巻より 第1番
J.S.バッハ(平野公崇編)/「主よ、人の望みの喜びよ」、「G線上のアリア」
J.S.バッハ(平野公崇編)/ゴルトベルク変奏曲より

冬 はまホールファイナル 特別コンサート ダン・タイ・ソン ピアノリサイタル 12月2日(火) 6:45PM(開演)

1980年、ショパン国際コンクールで東洋人として初めての優勝に輝き、衝撃の世界デビュー。以来30年余、世界で華々しい活躍を続ける。その清澄でなめらかな演奏は「ピアノの詩人」「ピアノにハンマーがあることを感じさせない」と称えられ、色彩豊かなピアニズムは世界の聴衆を魅了している。



写真：佐藤寛敏

1部

スカルラッチィ/ソナタより 全6曲
ショパン/ノクターン 変ホ長調 Op.55-2
ノクターン ハ短調 Op.48-1
ポロネーズ 第2番 変ホ短調 Op.26-2
ポロネーズ 第6番 変イ長調 Op.53 「英雄」

2部

ラヴェル/高雅で感傷的なワルツ
ソナチネ
亡き王女のためのパヴァーヌ
水の戯れ
ラ・ヴァルス

春 篠崎史紀 ヴァイオリンリサイタル 4月13日(月)

N響の第一コンサートマスターとして、「まる」の愛称で親しまれる。英才教育で有名な父母に3歳より手ほどきを受け、その後、田中令子、江藤俊哉、トーマス・クリスティアン、イヴリー・ギトリス各氏に師事。1978年毎日学生音楽コンクール全国第1位受賞。82年ウィーン市立音楽院オーケストラとの共演で欧州デビュー。群馬響、読売日本響コンサートマスターとして活躍後、97年NHK交響楽団コンサートマスターに就任。東京・大分のジュニアオーケストラの芸術監督も務め、後進の育成にも力を注いでいる。桐朋学園非常勤講師、昭和音大客員教授。

夏 横山恵子 ソプラノリサイタル 6月5日(金)

温かさと強靭さを併せ持つ美声で聴く者を魅了する実力派プリマ。ドイツ・コーブルク歌劇場にて「ドン・カルロ」エリザベッタ役で欧州デビュー後、欧州各地の劇場や音楽祭に出演。「蝶々夫人」の主役を始め、ブッチーニ、ヴェルディの主要レパートリーで活躍。国内でも、96年小澤征爾指揮「蝶々夫人」や、びわ湖ホール、新国立劇場、二期会公演で主演を重ねる。その圧倒的な歌唱は、ワーグナー、R.シュトラウスの作品においても高い評価を得ている。東京音楽大学教授。二期会会員。

秋 工藤重典 フルーツリサイタル 10月9日(金)

共演：工藤セシリア(ピアノ)

日本を代表する国際的フルーティスト。今年は楽壇生活50周年を迎える節目ともいえるリサイタル。デビュー以来バリを拠点に活躍し、名曲から超絶技巧を要する難曲まで、幅広いレパートリーで世界のファンを魅了し続けてきた。ソロ、室内楽、協奏曲と活躍の幅は広く、多くの指揮者、演奏家から厚い信頼を得ている。今回は、バリで育ち日本でもデビューを果たした注目のピアニスト、実娘のセシリアを共演者に迎え、フランスの香り高いコンサートをお届けします。

冬 アンドレアス・シュタイアー ピアノリサイタル 12月13日(日)

フォルテピアノとチェンバロのスペシャリストとして、ドイツを中心に世界的に活躍し、今や巨匠と呼ばれるに相応しい世界的鍵盤奏者。音楽への深い愛情と解釈に基づく彼の演奏は、作品の新たな魅力を引き出し、あくなき好奇心は古典に新しい風を吹き込んでいくと、多くの評論家に絶賛されている。近年の来日公演は常にNHKでも放送され、日本での人気も非常に高まっている。

★【重要】会員の皆様へのお知らせ★

- 会場：来年度からアクトシティ中ホールに移行します。
- 会費：会費は諸事情により、やむを得ず7,000円にさせていただきます。
- 継続方法：来年に限り、今までのような自動継続ではなく、会員継続手続きが必要になります。

継続をご希望の方は、同封の「2015年会員継続 申込みハガキ」を11月末日までにお送りください。

※詳しくは同封の「来年度(2015年)会員継続のお願い【重要】」をお読みいただきお手続きください。

※皆様の会員継続をお待ちしています。

個人情報の取り扱いについて

当会は個人情報の取り扱いについて「個人情報の保護に関する法律」及びその他の関連法令及びその他の規範、ガイドラインを遵守し、個人情報について適切な管理・取り扱いと保護に努めます。